

第 6 回 矢田渡船のこれからを考える会

日 時 : 令和 4 年 1 月 20 日(木)18:00~19:30

場 所 : 朝酌公民館 2 階 図書室

1. 今回の会議について (池田太持 公民館長)

- ・どっこい舎を矢田渡船に迎え、朝酌の地域資源を活かした事業展開について、地元と一緒に進めているところである。
- ・今年度事業の実施状況と、次年度以降の取り組み等について、ご意見を頂きたい。

2. 今年度の実施状況について(矢田渡船 米原 豊代表、どっこい舎) …資料 1、2

- ・今年度の決算見込み報告…米原 豊代表
- ・今年度の事業の実施報告…どっこい舎

3. 今後の事業展開について(矢田渡船 米原 豊代表、どっこい舎) …資料 3、4

- ・次年度の事業計画と観光料収入計画の説明…どっこい舎

【意見交換】

- ・今後の矢田渡船事業の取り組みや矢田渡船を活用した朝酌のまちづくりなどについて

4. 次回開催について (池田太持 公民館長)

【次年度の会議メンバーの確認】

【次回の開催日程の確認】・今年度と同様に、2 回程度の開催を予定。

1 回目:7 月頃(中間報告)、2 回目:1 月頃(事業の評価と総括)

【参考資料】1. 第 5 回矢田渡船のこれからを考える会 議事録

2. (再掲)大橋川周辺まちづくりの全体像・矢田渡船朝酌乗船場計画図

令和3年度 矢田渡船観光決算見込書

自 令和3年4月1日 ～ 至 令和4年3月31日

〔収 入〕

(単位：円)

科 目	今年度	前年度	対前年増減	内 訳
渡船料	0	330	△ 330	休止中
観光料	1,520,000	1,256,250	263,750	観光運航等 450,000円 キャンプ 220,000円 行政関係 850,000円
雑収入	27,000	6,800	20,200	自動販売機売上ほか
松江市補助金	1,400,000	1,400,000	0	【市】矢田渡船活用検討に係る補助金
合 計	2,947,000	2,663,380	283,620	

〔支 出〕

(単位：円)

科 目	今年度	前年度	対前年増減	内 訳
役員報酬	70,000	70,000	0	
人件費	850,000	860,000	△ 10,000	
法定福利費	12,880	12,000	880	
福利厚生費	29,000	8,000	21,000	
修繕費	523,000	1,182,000	△ 659,000	通常検査、修繕費用
事務費	59,000	50,000	9,000	監視料、公民館使用料等
光熱水費	42,000	60,000	△ 18,000	電気料、上下水道料
会議費	2,000	29,000	△ 27,000	公民館使用料
公租公課	12,000	12,000	0	法人事業税等
保険料	109,000	109,000	0	傷害賠償責任保険料
通信費	63,000	65,000	△ 2,000	郵便、電話料、携帯電話料金
燃料費	51,000	38,000	13,000	船舶燃料費
消耗備品費	25,000	25,000	0	
地域振興事業費	500,000	0	500,000	観光資源整備費（狐森島など）
消耗品費	56,000	45,000	11,000	
未払法人税	86,800	81,000	5,800	
合 計	2,490,680	2,646,000	△ 155,320	

収支差引	456,320	17,380		
------	---------	--------	--	--

※R4.1月末時点での実績を基に推計

令和4年1月20日

令和3年度 矢田渡船 年間報告書

(有)矢田渡船観光

令和3年度の、年間事業計画の報告をいたします。



1、矢田の渡し号の試験運行について
「利用しやすい環境づくり」に注力し、利用拡大を図る。

① 不定期便運航（サンライズ・サンセットクルーズ）

【当初計画】

朝日・夕日に合わせた時間に運航する。宍道湖遊覧船第2乗船場を経由して中海へ行く。

【進捗状況】

◇4月12日、サンライズ試験運行を行いました。

運転技術を学びながら、宍道港遊覧船乗り場まで経由し、中海にてアンカーを落とし、朝食（コーヒーとピタパン）を食べ、航路確認と料金の相談を行いました。



◇5月3日、【色の塗り替えお披露目サンライズ試験運行】を行いました。

途中でSNS（Facebook）ライブ中継を行いました。

また、今後の課題としてトイレの問題も解決しなくてはなりません。



【今後の予定】

- ・船内で食事をする以上は、お手洗いの問題を解決しなければなりません。
お手洗いの問題を考えながら事業展開を考えていきます。

- ・周遊航路を確定し、運輸局へ申請の後、運航を始めます。
- ・運転手の都合を考えながらスケジュールを組み、船の利用を広げていきます。

◆②不定期便運航（無人島上陸クルーズ）

【当初計画】

中の島・狐森島にキャンプ場を開き、上陸できるように運航する。

【進捗状況】

○中の島キャンプ場

4月2日、地権者（河内さん）と交渉させていただき、キャンプ場運営に御快諾いただきました。

問題点として栈橋が壊れており、7knotでは着岸が難しいとのこと。

今後栈橋を修復しキャンプ場運営を目指します。



○狐森島キャンプ場

矢田周辺の地権者さんにご理解をいただき、キャンプ場運営を行っております。

5月11日-12日と5月28日-29日の4日間、狐森島キャンプ試験運行を行いました。

5月31日、朝酌交番にて無人島での事故があった場合の緊急連絡先等の打ち合わせを行いました。

7月1日からキャンプ場の利用受付を開始し、ホームページも作成、グーグルマップへの掲載をしました。

(<https://www.kitsunemorijima-campsite.com/>)



なお、狐森島のキャンプサイトへの往復は、矢田渡船観光がキャンプ運営を行えば、運輸局への申請はしなくても良くなりました。



利用料金は、
宿泊 4,000 円。デイキャンプ 3,000 円。(船往復代、簡易トイレ利用料含む)
上記のように運営しております。

【今後の予定】

利用者拡大に向けての広報と、オペレーションのしやすさを考えていきます。

◆③適正な料金体系の維持・検討

【当初計画】

上記に加え、より利用しやすい観光船を目指した適正な料金体系の維持・検討に努める。

【進捗状況】

チャーター料金を初乗り 1 時間 20,000 円として、30 分毎に 5,000 円上乗せしていく形に変更しました。
(いかなる場合も、矢田渡船乗り場を出発してからの時間とする)

2. 朝酌地域の観光を絡めた運営

矢田渡船を利用し、朝酌地域へ誘導するようなコンテンツを創出する。

◆①中の島を利用したキャンプサイト運営

◆②狐森島を利用したキャンプサイト運営

【当初計画】

船でしか行けない無人島（中の島・狐森島）を利用することで、矢田渡船の利用者を増やす。

【※進捗状況は上記同様】

◆③ため池を遊び場に整備

【当初計画】

多賀神社から西に 200m の場所のため池を整備し、親子で遊べるスペースを作る。

【進捗状況】

現時点で手を入れておらず、今後整備など、手を入れていきたい。

◆④矢田渡船駐車場の利用（朝市カフェモーニングおはようございます）

【当初計画】

矢田渡船駐車場近辺を利用し、地元で採れた野菜やお米の販売、またカフェなどを開き、多くの人に利用してもらう。中心市街地から渡船利用を促す。

【進捗状況】

5 月 15 日と 6 月 19 日の 2 日間、朝 7 時から 9 時まで、AOMM あおむむ（朝酌おはようございますモーニングマーケット）を開催しました。



7 月からは 8 時から 10 時までと時間を変更し開催しました。徐々に定着してきました。



8月・9月は新型コロナウイルスの影響、12月は強風と雪の予報のため中止しました。

10月16日、11月20日も開催し、若者とその家族が集まるイベントとして定着しています。

【今後の予定】

毎月第3土曜日を AOMM の日と定め、朝市を矢田渡船事務所の駐車場で行うということを慣習化し、地元の人たちと一緒にこの文化を根付かせたいとおもいます。

12月には、7knot 号も運航する予定でしたが、開催には至りませんでした。しかし、今後は AOMM の時には気軽に乗船できる船としてプロモーションを行っていきたいとおもいます。

※課題として。

- ・来場者駐車場がいっぱいになり、駐車場係りの人員と駐車場スペースの確保を行っていききたい。
- ・天候不良による中止は、事前に仕込みをしている出店者に申し訳なく、悪天候の場合でも開催できる場所の確保は、開催する上で必要になります。(1月の中止理由でもあります)

◆⑤台船 bar（水上店舗）運営

【当初計画】

松浦 進さんに台船をお借りして、水上に店舗を出す。

賑わいの創出と、渡船利用者を増やすための広報として利用する。

【進捗状況】

運転技術が追い付かず、出す勇気がない状況です。

あとは、勇気をもって、台船を引っ張るのみとなっております。

【今後の予定】

朝市と併せて、台船を出して店舗の出店をやってみたいとおもいます。

◆⑥船の上で飲食

【当初計画】

渡船の甲板上にテーブルを置き、ワインなどを飲みながら運航する。

【進捗状況】

サンセット試験運航に合わせて、コーヒー・ピタパンを提供しました。

【今後の予定】

大井にある錦峰園さんのお茶を使用し、和菓子を提供したいと考えています。

船上でしか食べることが出来ない、和菓子を三英堂さんにお問い合わせをして作成していただきました。



3,ホームページ・SNS ページによる広報の充実

【当初計画】

現在のホームページ上で料金表や定期運航コース紹介などをおこない、利用促進につなげる。

また、SNS（Facebook・Instagram ページ）も同時に作成の後運用する。

【進捗状況】

矢田渡船の facebook（145 名フォロー）・Instagram（148 名フォロー）アカウントを作成しました。

また AOMM の facebook（112 名フォロー）・Instagram（639 名フォロー）ページも作成しました。

また、facebook の矢田の渡し船サポーターズ（322 名フォロー）の管理者も引き継ぎました。

※矢田の渡しサポーターズ（281 名フォロー）というページの管理を引き継ぎ、現在利用をしています。

また、朝酌公民館を通して、市報と一緒に各ご家庭に矢田渡船無料機関紙（7knot）を配布しました。

対外的な広報に関しても随時受け付けて広く市民に広報を行いました。

- ・ 5 月 12 日山陰中央新報
- ・ 5 月 22 日 TSK 山陰中央テレビ
- ・ 5 月 23 日松江ケーブルビジョン・NHK 松江放送局
- ・ 6 月 23 日日本海テレビ
- ・ 6 月 13 日に TSK の上定市長の特番で、矢田渡船をご利用いただきました。
- ・ 6 月上旬に、山陰中央新報広報誌（あえる）を各家庭に配布しました。

- ・11月18日タウン情報誌（ラズダ）
- ・12月15日山陰中央新報
- ・来年度以降の高校生向け教科書「観光・地域活性化事例ワークブック」に掲載。



【今後の予定】

今後も、多くの皆様に矢田渡船の現状を伝える為に、プレスリリースを行いながら、広報を行っていきます。また随時ホームページを変更・更新を行っていきます。

4,小中学校地域学習運航

【当初計画】

地元をはじめとする小学校・中学校の学習向けコースの設定を検討し、社会・地域学習の一助とするとともに、子どもや保護者を中心に矢田渡船の認知度向上を図る。

【進捗状況】

6月5日に竹矢小学校の3年生を対象に矢田渡船を利用した地域学習を行いました。



その他、10月17日（大海崎子供会）、10月31日（朝酌小学校）、11月21日（津田子ども会）ご利用いただきました。

5,地域や団体との連携・共創による事業拡充と持ち込み企画運航の積極的受け入れ

【当初計画】

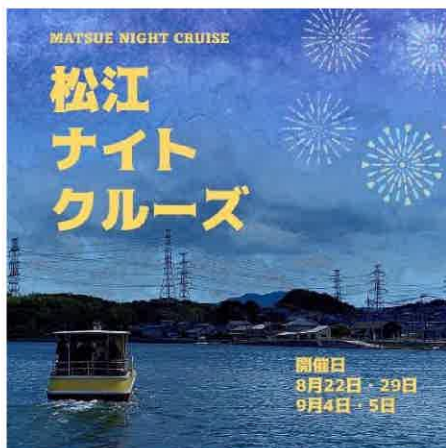
これまで通り各種団体との連携による運航企画や、要望に応じた随時運航を継続していくことで、より魅力的な遊覧運航メニューの開発・設定につなげる。

- ・季節に応じた観光遊覧（地元など）
- ・水郷祭花火観光（商工会議所・各種企業など）
- ・嫁島渡船イベント（NPO 水の都プロジェクト、ミズベリング松江協議会）
- ・水鳥観察遊覧
- ・ふるさと教育遊覧（地元小学校、高等教育機関）
- ・地域イベントでの遊覧体験（地元地区）

など

【進捗状況】

・水郷祭の代替え事業「松江 Genki 花火」に合わせて、ナイトクルーズを計画しましたが、花火が中止になりナイトクルーズも中止いたしました。



・10月に、嫁島渡船イベント（NPO 水の都プロジェクト、ミズベリング松江協議会）が開催されました。

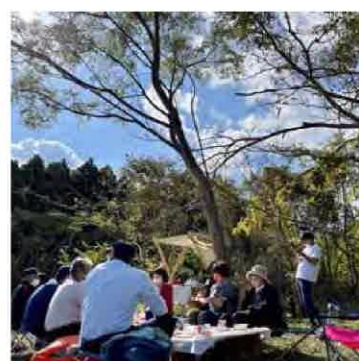


・11月20日、朝酌地区まち歩き（矢田渡船でめぐる出雲風土記の原風景）を行いました。
ガイドデビューも果たしました。



・8月21日・22日に TSK 山陰中央テレビのエリ8祭りのイベントに出航する予定でしたが、新型コロナウイルスの関係により中止になりました。

・狐森島にて、矢田自治会と地権者のみなさまをお呼びして、お茶会を開催しました。



・株式会社 Huber.主催のインバウンド事業のサイクリング経路として、津田乗船所から狐森島に渡り、矢田渡船乗船所に渡る事業を行いました。(11月・12月、計全4回)



・朝酌の観光ガイド研修を、神社ガール代表河野美智さんをお招きして9月10日に行いました。



6,その他

◆①現有船の長寿命化と魅力向上

【当初計画】

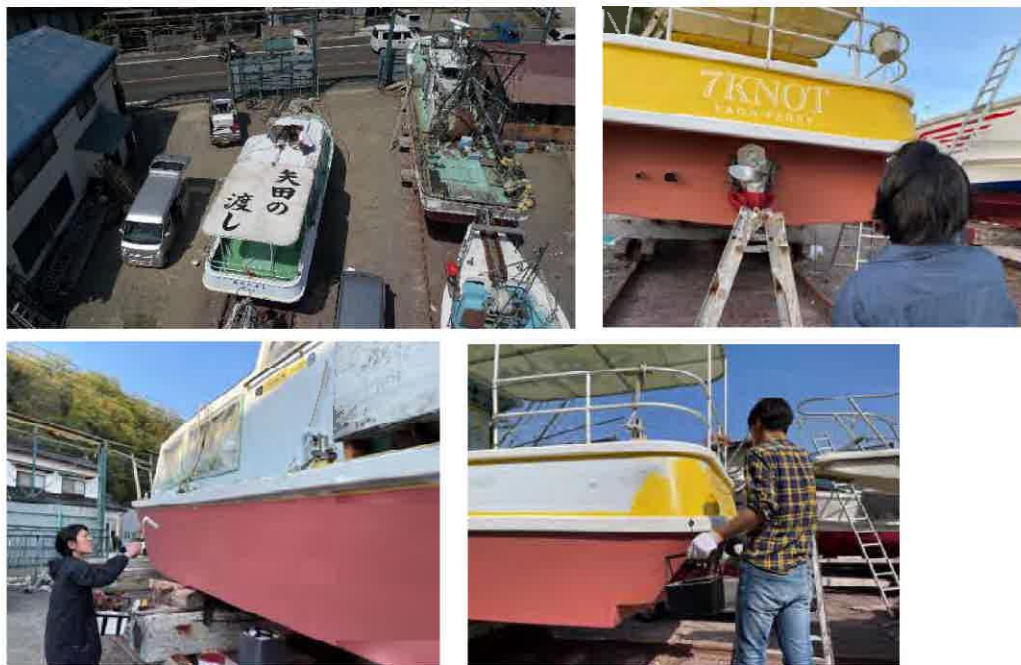
現有船を有効に活用するため必要なメンテナンスを施すとともに、外装への防錆材の塗布と同時に色を塗り替えることで、長寿命化と新たな魅力の創出を図る。

【進捗状況】

4月20日～27日、美保関の亀屋造船所のドックにおいて、色塗り替えを行いました。

新たに船の登記名を変えて「7knot」になりました。

色の日本の古代色【菟安色】【土器色】の2色に変更しました。



◆②地元の方から使用しなくなった船を頂き、修理して運航

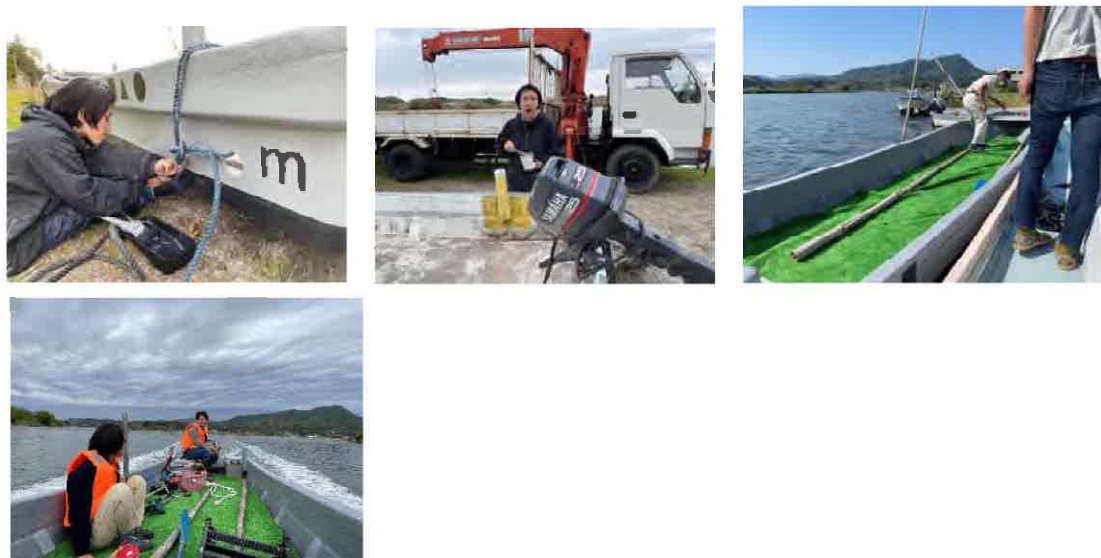
【当初計画】

現有船だけではなく地元で不要となった漁船を譲り受けるなどして活用することで、より利用者のニーズにあわせた運航を図る。船の譲渡を地元に呼びかけることで協力者増加と広報につなげる。

【進捗状況】

船を欲しがっている私たちを見かねた地元住民の方が船をくれました。

6月22日、小型船舶機構において船舶登録完了しました。(ムスス号と名付けています)



◆③ソリコ船の作成

【当初計画】

作成に携わる人を募集しながら、中海伝統のソリコ船を作成する。かかる費用は、クラウドファンディングにて資金調達しながら、周知広報を行う。

【進捗状況】

ソリコ船を作成できる人を探しているのと同時に、現存しているソリコ船を探していたら、美保神社にあることが分かり、地元住民と一緒に見学させていただきました。

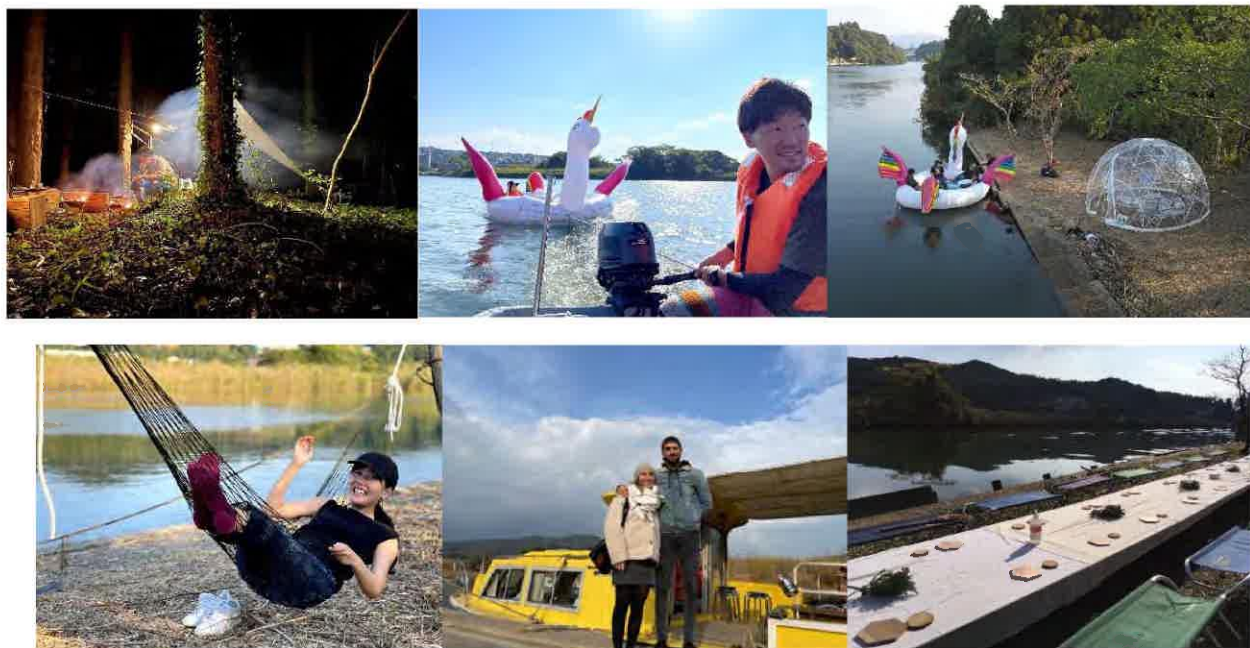


【今後の予定】

丸太を見つけることから始め、つぎはぎししない形で作成していこうと思います。

◆その他

・ 今後は、キャンプ利用以外にも狐森島の活用を考えていきます。
畑利用や世界一長いベンチの作成など、地域の皆さまのご意見を頂きながら、みんなから愛される狐森島や矢田渡船観光を目指していきます。
今後ともよろしくお願いいたします。



以上

事業計画表(令和4年度)(案)

項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
不定期便運航 (サンセット、サンライズ運航)		計画	計画	告知	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営
毎月不定期便運航 (中海・大橋川周遊ガイド運航)	告知	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営
キャンプサイト運営(中の島)	整備	整備	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営
キャンプサイト運営(狐森島)	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営
ため池整備事業	整備	整備	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営
AOMM(矢田渡船駐車場)	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営	運営
AOMMクルーズ	運航	運航	運航	運航	運航	運航	運航	運航	運航	運航	運航	運航	運航
台船bar				各所申請・確認	各所申請・確認	開催							
ソリコ船作成	丸太を探す	丸太を探す	丸太を探す	告知	作成イベント								
小学校・中学校の地域学習	年間通して随時受付												
業務依頼運航(随時)	年間通して随時受付												
地元協力者の募集・育成	年間通して募集												

・収益が見込める事業→

・朝酌周辺活性化事業(又は広報事業)→

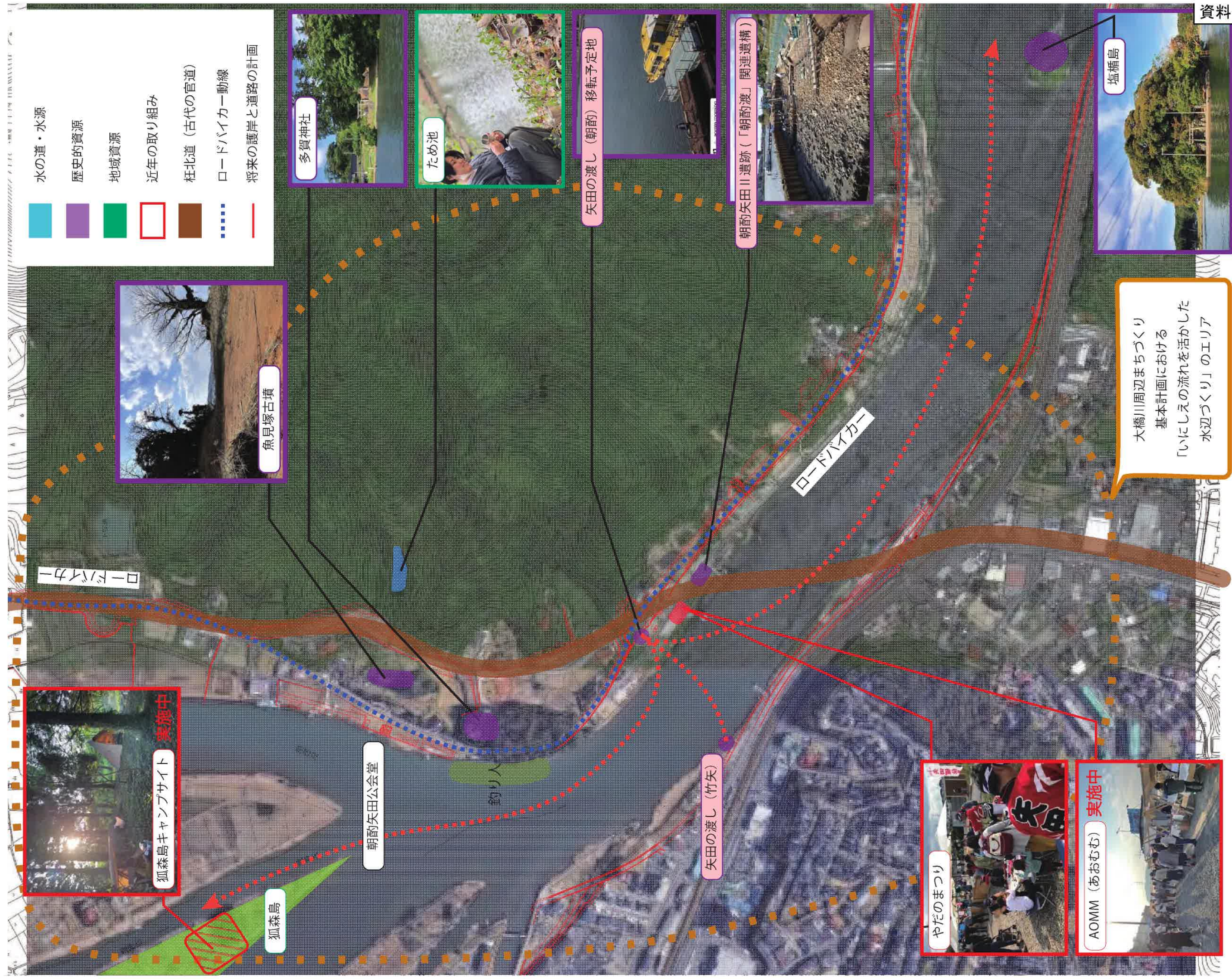
・不確定だが、収入が見込める事業→

R4年度 矢田渡船 観光収入計画(案)

項 目	金 額 (円)	積 算 内 訳
不定期便クルーズ	1,500,000	(1500円×15人=22,500円×4回/日)×月2回×年8回
キャンプ中の島	100,000	1家族10,000円×10組/年
キャンプ狐森島	2,000,000	4000円×80人/月×年6回
ため池	100,000	イベント収益
AOMM×クルーズ	360,000	500円×40人=20,000円、20,000円×年8回+AOMM出店料(25,000円/月×8回/年)
チャーター	500,000	3万円※(2時間)×2回×年8回
合計	4,560,000	

※チャーター料金：1時間20,000円 延長料金30分5,000円（矢田渡船乗り場からの往復料金）

矢田渡船周辺の歴史的地域資源と近年の取り組み



2-1 大橋川周辺まちづくりの全体像

出雲国風土記のスケール感で繋ぐ、宍道湖・大橋川・中海の水辺回遊公園都市

「大橋川周辺まちづくりの全体像」は、「基本方針」を「各地区の整備の骨格」へと具体化するために、水辺の活用、観光振興・商業振興と関連させながら、宍道湖から中海に至る水都松江の全体像としてまとめたものである。

水都松江の水辺を活かしたまちづくりの理念は、季節の景・一日の景を楽しみながら散策できる回遊性を重視した「水辺回遊公園都市」とする。「水辺回遊公園」とは、宍道湖・大橋川の既存の親水空間、新たに創出・再生する水辺空間、良好な視点場、環境学習の場等を含む巨大回遊空間のことである。

宍道湖・大橋川・中海を繋ぐ水辺の回遊公園都市は、出雲国風土記のスケール感でとらえ、松江城・堀川遊覧、歴史や文化を活かしたものである。

いずものくに ふ ど き

出雲国風土記

奈良時代の733年に完成した出雲国風土記は、八東水臣津野命(洪水神)が大社湾の「國の長浜」と美保湾の「夜見が浜」を綱として、それぞれを三瓶山と大山を杭として結び、遠くの朝鮮半島や能登半島から余った土地を引き寄せ島根半島としたと、壮大なスケールの国引き神話が始まっている。大橋川はこの国引きによる雄大な目玉に当たる部分で、壮大なスケールの中にある。

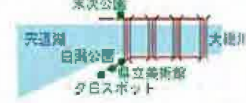
松江大橋

- ◆松江大橋を架け替える場合のデザインは、歴史・文化を感じさせる風情を大切にしたいものとする。
- ◆現在の風情を引き継いだ橋となるよう配慮する。
- ◆岸辺の回遊コース・まち歩きコースとともに、歩行者動線の中心的な南北軸と位置づけ、南北に休憩できる橋詰め公園を検討する。



岸辺の回遊コース

- ◆南北を繋ぐ上流の4つの橋を歩いて巡り、季節や一日の中で見せる多様な水辺の表情を見ながら回遊できる空間を創出する。また、夕日スポットや県立美術館、白濁公園等を繋ぐ連続した空間となるよう配慮する。



- ◆回遊コースの随所に休憩スポットとなる場を創出し、水辺の近さを感じることが出来るよう配慮する。(橋詰め広場等)

- ◆伝統的なまちなみや、良好な視点場に配慮した空間とする。



まち歩き回遊コース

- ◆松江駅前から水辺へ誘導する歩行者動線に配慮する。
- ◆商店街を歩きながら、松江城まで回遊できる歩行者動線を意識したまちづくりとする。



- ◆松江城、カラコロ広場、堀川遊覧、宍道湖遊覧船等の観光資源と市街地内の公園等を活かし、商業・観光振興と運動した歩行者動線に配慮する。

- ◆伝統的なまちなみを楽しみながら散策し、水辺の公園や親水空間で休憩できるスポットを創出する。

水上回遊コース

- ◆宍道湖・大橋川・中海をつなぎ、風土記のスケール感を感じながら回遊するコースを、商業振興・観光振興と併せて検討する。



- ◆乗船場等の水上交通の拠点となる場所を創出する。(配置についても検討)

- ◆水都松江の風情と水郷風景を最大限に活かし、堀川遊覧、宍道湖遊覧、中州周遊等との連携に配慮する。



水郷回遊コース

- ◆自然豊かな水郷風景を見ながら回遊できる散策道・自転車道として活用する。



- ◆目的に適した場所では、釣りや、カヌー等のレジャースポットや環境学習の場として活用する等、治水上有効な遊水機能の保全にも配慮しながら、景観と自然環境を損なうことのない整備を検討する。

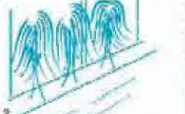
- ◆現在の生活道路としての機能や水辺の近さ、水郷風景等、地域の特性に配慮した河岸を検討し、歩行者や自転車等が河岸を回遊できるよう連続性に配慮する。

- ◆白鳥が飛来する豊かな自然が現存する大橋川河口では、環境学習の場としての可能性を、河岸にはヨシ等の再生等を検討する等自然環境に配慮する。



北岸：歴史・文化のかおりを残す「和の趣」のまちづくり

- ◆水辺に現存する夕日スポットや県立美術館前、白濁公園、源助公園を繋ぎ、宍道湖や大橋川の水の流れ、季節や一日の中で見せる多様な景観を楽しみながら回遊できる「岸辺回遊コース」の一部として楽しめる、歴史・文化のかおりを残した「和の趣」を活かしたまちづくりを行う。(優れた景観形成の誘導措置を併せて検討)



- ◆河岸形状や人の動線、車の動線、商業振興などを考慮し、堤防・道路・沿道建築物との調和を図りながら「まちの骨格」を検討する。

- ◆老舗旅館や飲食店等、伝統的な施設も構想の重要なポイントとして位置づける。

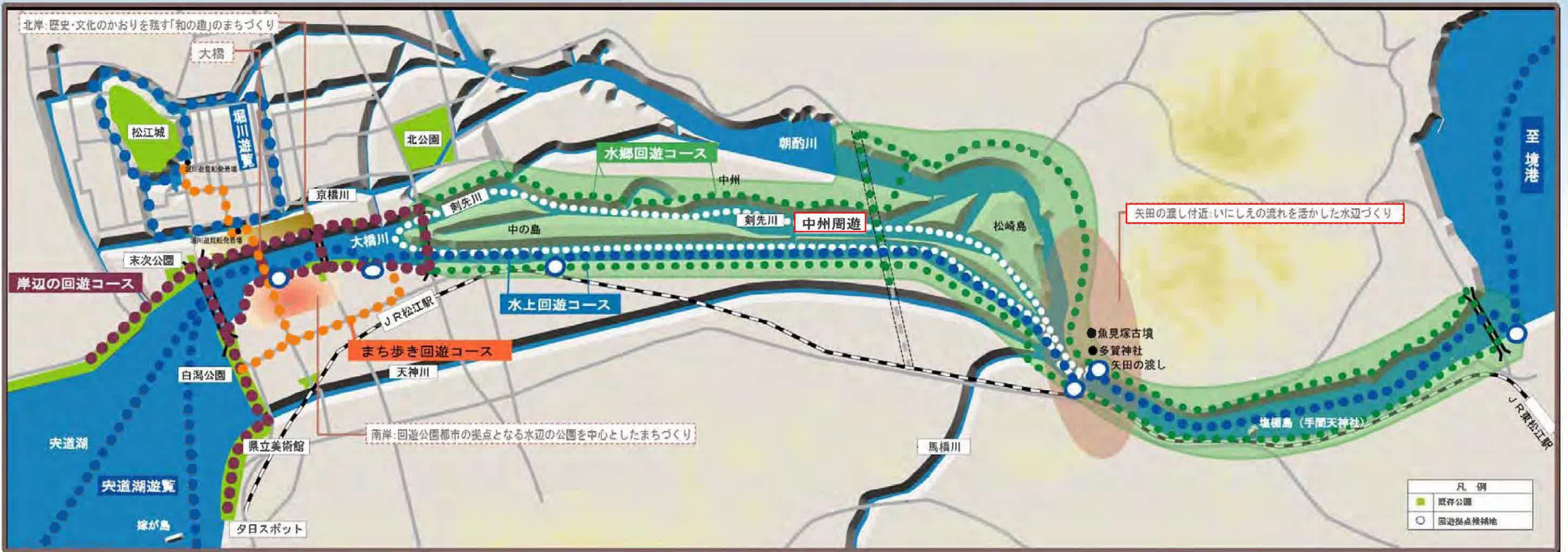
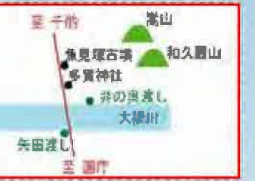
南岸：回遊公園都市の拠点となる水辺の公園を中心としたまちづくり

- ◆水辺に現存する夕日スポットや県立美術館前、白濁公園、源助公園を繋ぎ、宍道湖や大橋川の水の流れ、季節や一日の中で見せる多様な景観を楽しみながら回遊できる「岸辺回遊コース」の拠点であり、「水上回遊コース」の拠点ともなる「大橋南詰め公園」を中心にまちづくりを行う。(面的整備の検討)

- ◆拠点となる水辺の公園や、人の動線、車の動線、商業振興などを考慮し、道路や公共施設等の配置を決める「まちの骨格」を検討する。また、水辺は人の動線を主とし、背後の道路では、歩・車道分離や通行規制も含めた検討を行う。

矢田の渡し付近：いにしへの流れを活かした水辺づくり

- ◆「水上回遊コース」「水郷回遊コース」の休憩スポットや水上交通拠点候補として検討する際には、多賀神社、魚見塚古墳、塩原島等の歴史的・文化的財産を活かした空間となるよう配慮する。



凡 例	
■	既存公園
○	回遊拠点候補地

